

新刊案内

宮川 渉 著

よみがえる

百舌鳥古墳群

—失われた古墳群の実像に迫る—

百舌鳥・古市古墳群の
世界遺産への推薦決定！

破壊され、
または破壊されそうになった
古墳に取り付いて、
少しでも
考古学の資料を残そうとした
青年や少年がいた。

◆A5判並製／260頁／定価2500円＋税



戦後開発で多くの古墳が破壊され、
主要巨大古墳が天皇陵・陵墓参考地とされて
ベールに包まれたままの百舌鳥古墳群。
地元堺市に生まれ育った著者が、
みずからの調査と保存運動の体験から、
百舌鳥古墳群の全体像に迫る。

目次

第1章 百舌鳥古墳群の成り立ち

- 1 三つの部分からなる百舌鳥古墳群
- 2 百舌鳥古墳群の立地と方位性
- 3 古市古墳群との関係

第2章 戦場の中の百舌鳥古墳群

- 1 「仁徳陵」上空で被弾したB29
- 2 堺空襲と「仁徳陵」畔の惨状

第3章 荒廃と破壊の中の百舌鳥古墳群

- 1 七観古墳の破壊
- 2 カトンボ山古墳の破壊
- 3 目の前で崩されていく大塚山古墳
- 4 イタスケ古墳を護れ！

第4章 巨大古墳を造ったチエとワザ

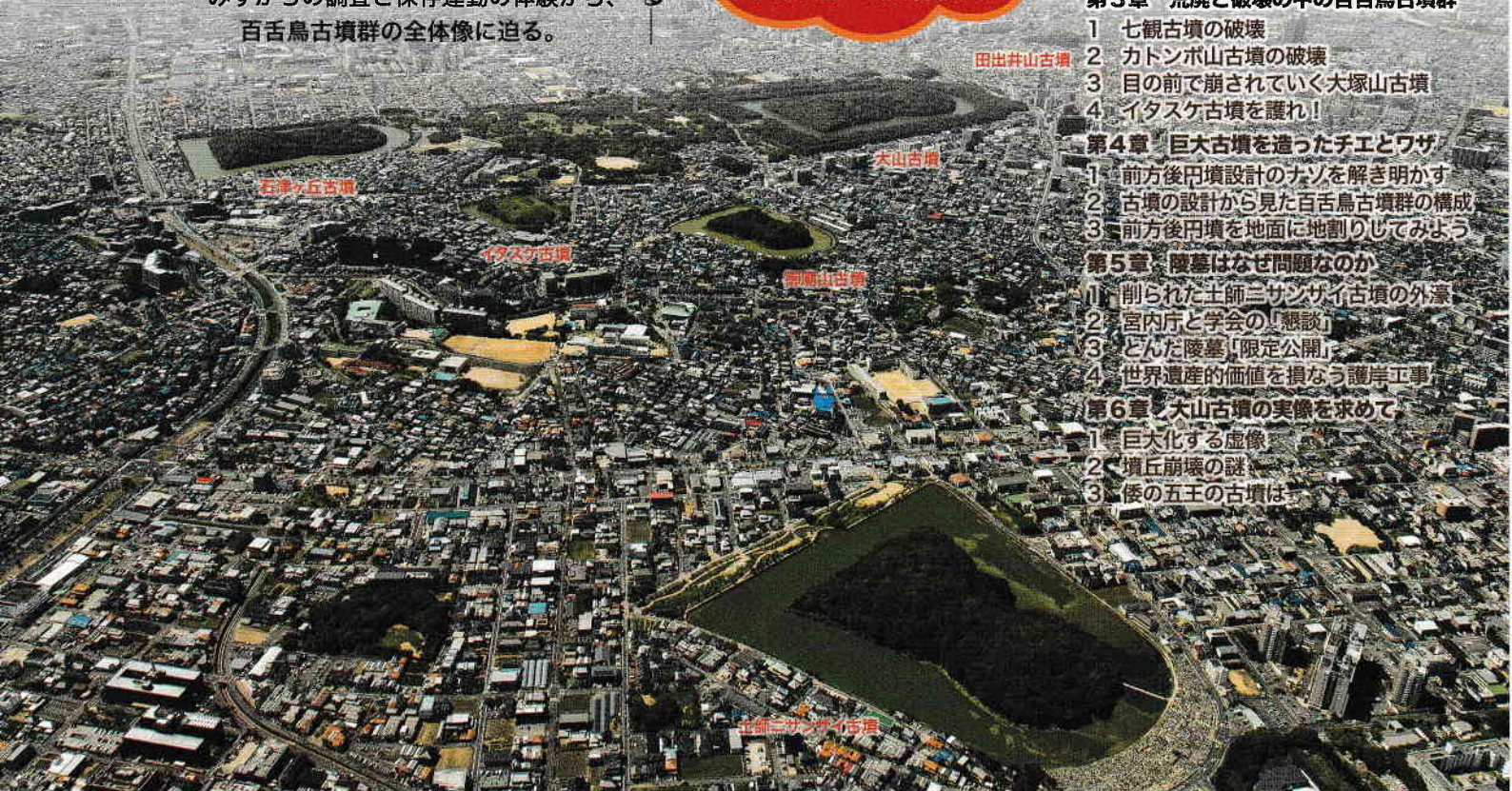
- 1 前方後円墳設計のナゾを解き明かす
- 2 古墳の設計から見た百舌鳥古墳群の構成
- 3 前方後円墳を地面に地割りしてみよう

第5章 陵墓はなぜ問題なのか

- 1 削られた土師三ツサシイ古墳の外濠
- 2 宮内庁と学会の「懇談」
- 3 どんた陵墓「限定公開」
- 4 世界遺産的価値を損なう護岸工事

第6章 大山古墳の実像を求めて

- 1 巨大化する虚像
- 2 墳丘崩壊の謎
- 3 倭の五王の古墳は



写真(百舌鳥古墳群全景 東から)：梅原章一撮影

著者紹介 みやかわ・すすむ 1932年、大阪府堺市生まれ。1943年、国民学校生時に末永雅雄著「大和の古墳墓」を読み、古墳に興味をもつ。1945年、大山古墳(仁徳陵古墳)外堤に接して校舎のあった大阪府立農学校に進学し、堺市空襲で被災し、古墳の被害を実見。戦後、復興の土取り場としてつぎつぎに破壊される百舌鳥古墳群の緊急調査に参加する。その過程で、末永雅雄、森浩一に出会い師事・兄事する。その後、地元で歯科医を開業するかたわら、遺跡の保存と陵墓公開運動を続ける。現在、文化財保存全国協議会常任委員、奈良県立橿原考古学研究所共同研究員。

◎全国の書店にてご購入・ご注文いただけます。

| | | | | |
|------|-----|--|---|---|
| ご注文書 | 書店名 | 新泉社 東京都文京区本郷2-5-12 TEL 03 (3815) 1682 FAX 03 (3815) 1684 | | |
| | | 宮川 渉 著 よみがえる百舌鳥古墳群 —失われた古墳群の実像に迫る— | 定価2500円＋税 ISBN978-4-7877-1805-1 C1021 | 冊 |
| | お名前 | ご住所・お電話番号 | | |